

モロッコ政治月報（5月）

2016年10月5日
在モロッコ大使館

5月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎（4－5日）第4回日本・アラブ経済フォーラムのカサブランカ開催
- ◎（11－13日）モハメッド6世国王の中国公式訪問
- ◎（31日）アブデラジズ・ポリサリオ戦線書記長死去

<内政・政局・治安>

1 内政・政局

（1）摂政評議会の開設にかかる組織法案の参議院採択

5日、参議院は摂政評議会の開設にかかる組織法案を全会一致で採択した。この組織法案は4月に衆議院で採択されていることから、近日中に発布される。

（2）PJD特別党大会の開催

28日、最大与党PJD（公正と発展党）はラバトにて特別党大会を開催し、10月7日の衆議院選挙の準備を理由に、7月に予定されていた第8回PJD全国党大会を明年まで延長することを決定した。なお、この決定は党员投票により行われ、約95.3%の賛成票を得て可決された。これにより、党執行部役員の任期も明年まで延長されることとなり、ベンキラン党首（首相）は党首として次期衆議院選挙を戦うことが決定された。

（3）中央労働組合主導による公務員ストライキ

31日、モロッコ4大労働組合連合（UMT（モロッコ労働組合連合）、CDT（民主労働連合）、FDT（民主労働連盟）、UGTM（モロッコ労働者総連合））は、政府が検討している公務員年金改革案に反対して、全国各地において公務員ストライキを実施した。労組側の発表によれば、地方公務員のストライキ参加率は94%、中央省庁の公務員の参加率は72%であった一方、政府発表では地方公務員の参加率は22%以下であったとしている。

2 治安

(1) ISILリビア帰還戦闘員1名の逮捕

5日、内務省は、カサブランカのモハメッド5世空港において、チュニジアから帰国したモロッコ人1名を逮捕したと発表した。逮捕者はケニトラ出身者でリビアに渡航しISILに参加していたものとみられており、本年初めより当局により追跡されていた。また、2日、中央司法捜査局（BCIJ）は、サイディアにおいてアルジェリアより入国した1名を取り調べた。同人は、エル・ジャディーダ近郊のシディ・ベヌール出身であり、リビアにおいてISILに加わっていたとみられている。

(2) チャドから入国したISIL要員の逮捕

(ア) 13日、中央司法捜査局（BCIJ）は、タンジェにおいてISIL要員のチャド人を逮捕した。同人は4日、モハメッド5世空港（カサブランカ）からモロッコ国内に入国しており、ISILの指示によりモロッコ人とアルジェリア人からなる休眠細胞を訓練し、高級ホテル、軍事施設、警察署、西側大使館等に対しテロ攻撃を行うことで、モロッコ国内の治安と安定を脅かすことを計画していた。

(イ) 逮捕に際し、爆発物の原材料とみられる液状、粒状の物質、圧力鍋、バッテリー、電線、金属球、改造防弾チョッキ、爆発物の製造方法を記した書類、攻撃対象としていくつかの町を写したビデオ映像などが押収された。

(ウ) また、同人はモロッコ北東部のオリエンタル地域にISILの支配地域を確立することを狙いとして、他の要員と共謀し、治安機関の要員の拘束や殺害を企てていた。内務省は、ISILがその戦略を変更し、サブサハラからモロッコへ要員を派遣し活動しようとしていることが明らかになったと述べている。

3 軍事

モロッコ王立軍創設記念式典におけるモハメッド6世国王演説

14日、モロッコ王立軍創設60周年記念式典においてモハメッド6世国王が演説を行い、創設60周年を迎えたモロッコ軍人に対し最高指揮官としての敬意を示した。また、同国王は、サヘル・サハラ地域などの南部国境地域における警戒と監視の強化と国内治安維持のための軍の協力に謝意を表すると共に、イスラム過激主義の軍への浸透を防ぐ穏健なイスラム教の指導を実施している旨述べた。このほか、アラブ・アフリカを含む友好国との連携の重要性について述べると共に、軍人の処遇改善のためにこれまでに実施した処置に言及した。

<外交・国際関係>

4 我が国との関係

第4回日本・アラブ経済フォーラムのカサブランカ開催

(1) 4日及び5日、カサブランカにて我が国及びアラブ連盟共催の下、第4回日本・アラブ経済フォーラムが開催された。我が国からは林経産大臣（当時）及び武藤外務副大臣（当時）が出席し、アラブ側からはトワイジリ・アラブ連盟事務総長補佐官が出席、モロッコからはエル・アラミ産業・貿易・投資・デジタル経済大臣を始めとする閣僚が出席するなど、日本及びアラブ連盟加盟国（21か国及び1機関）の官民双方から800名が参加した。閣僚級会合では、①経済関係の多角化、②モロッコにおける投資機会、③エネルギー、環境、インフラが議論され、日本・アラブ経済関係の発展のための共同声明（カサブランカ宣言）が発出された。

(2) この会合に出席した武藤外務副大臣は、5日、ラバトにてベンキラン首相及びメズアール外務・協力大臣とそれぞれ会談を行い、両国は今次日本・アラブ経済フォーラムの成功を機に、経済分野を始めとする様々な分野で協力関係を深化させることを確認した。また、林経産大臣はエル・アラミ産業・貿易・投資・デジタル経済大臣と会談し、ビジネス関係の更なる発展を通じ、両国の経済関係の一層の進展に向け協力していくことで合意した。

5 中国との関係

(1) モハメッド6世国王の中国公式訪問

11日から13日までモハメッド6世国王は中国を公式訪問した。この機会に、モハメッド6世国王は習近平国家主席と会談したほか、李克強國務院総理や張徳江全国人民代表大会常務委員会委員長から表敬を受けた。また訪中中の11日、モハメッド6世国王と習近平中国国家主席はモロッコ・中国戦略パートナーシップ設立にかかる共同声明に署名するとともに、両国首脳は、司法、経済、財政、文化、観光、エネルギー、インフラ及び領事を始めとする分野にかかる二国間協力の以下の15の文書の署名に立ち会った。

- 経済・産業パートナーシップ覚書
- 経済・財政協力ゾーン設立にかかる合意覚書
- 犯罪者引渡し協定
- 刑法の分野における司法相互扶助協定
- 経済・技術協力協定（1億元の無償資金協力）
- 査証免除及び査証発給手続の相互簡素化にかかる合意覚書
- 中国鉄路総公司（China Railways）とモロッコ国鉄（ONCF）間の鉄道協力にかかる合意メモランダム
- 建設・インフラ部門における協力強化のための合意覚書

- 2016－2020年文化協力協定適用プログラム
- 地質・鉱物部門における協力協定
- 両国の中央銀行（モロッコ中央銀行及び中国人民銀行）間の通貨スワップ協定
- 観光協力強化のための合意覚書
- 炭化水素及びエネルギー部門における協力協定
- 輸出入された食料品の安全に関する協力のための合意覚書
- 科学・技術・国防産業分野における協力協定

（2）ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と王毅中国外交部長との会談

12日、ドーハで開催された中国・アラブ協力フォーラム第7回閣僚級会合に出席したブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣は、同会合の-marginで王毅中国外交部長と会談した。会談の中で、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣は、同時期に行われているモハメッド6世国王の訪中に触れ、同訪問にて署名された戦略パートナーシップを評価した上で、モロッコの領土の一体性及び西サハラ問題解決のためのモロッコの努力を説明した。

6 インドとの関係

アンサリ印副大統領のモロッコ訪問

30日から6月1日までアンサリ印副大統領がモロッコを訪問し、ベンキラン首相、メズアール外務・協力大臣及び衆参両院議長と会談した。また、アンサリ副大統領の今次訪問の際に、モロッコ外交研究学院と印対外関係研究所間の覚書が署名され、両国は外交官・専門家・研究者養成プログラムにかかる情報交換を約束した。また、両国は2016-2019年文化交流プログラムにも署名し、音楽、映画を始めとする芸術、古文書、文化遺産などにかかる分野の協力を合意した。

7 仏との関係

メズアール外務・協力大臣とエロー仏外務・国際開発大臣との会談

18日、パリにて、メズアール外務・協力大臣は、二国間関係及び共通の利益を有する地域的・国際的な諸問題についてエロー仏外務・国際開発大臣と会談を行った。同会談後、メズアール大臣は、モハメッド6世国王とオランド仏大統領の会談や定期的な閣僚級相互訪問などにより両国の二国間関係は素晴らしいものとなっている旨述べつつ、これら二国間関係の肯定的なダイナミズムを称賛した。メズアール大臣はまた、モロッコのサハラ（ママ）を巡る人為的な紛争にかかる仏の「一貫した」立場に謝意を表明し、最新の国連安保理決議との関連で、本件会談が国連におけるプロセス及び今後の見通しを提起する機会となった旨述べた。この点、メズアール大臣はモロッコに対する仏の支持を称え、モロッコは常に開かれていたことを指摘しつつ、MINURSOの任務及び

役割を明確化するために国連事務局及び安保理との対話を継続する旨表明した。同大臣はまた、本件会談において（地中海沿岸国）5＋5サミットの開催日程にかかる意見交換を行った旨述べ、両国は10月近辺での同サミット開催に向けて調整する旨合意したと述べた。

8 米国との関係

（1）米国国務省年次人権報告書に対するモロッコ内務省コミュニケ

17日、モロッコ内務省は、米国国務省が4月に発表した年次人権報告書（モロッコ国別報告書）に対する強い批判を示すコミュニケを発出した。コミュニケの中で、内務省は同報告書を「極めてとんでもない（*veritablement scandaleux*）」と評しつつ、モロッコ政府は数年前から、米国当局に対し、国務省人権報告書の正確さの欠如と事実から離れている偏った性質について注意を促してきたと述べた。また、本件について正しい内容を記載するために、米国がモロッコ政府と協力することを要請した。

（2）米国国務省年次人権報告書に関するブリタ外務・協力大臣付特命大臣からブッシュ当地米大使に対する抗議

18日、ブリタ外務・協力大臣付特命大臣がブッシュ当地米大使を召還し、マンスーリ調査分析総局（DGED）総局長同席の下、米国国務省年次人権報告書に関し強く抗議した。この会談で、ブリタ特命大臣はブッシュ大使に対して、当該国務省報告書の評判を損なう確固たる情報操作及び明白な事実関係の誤りを裏付ける事案を説明した。また、ブリタ特命大臣は、本件に対する米国報道官の反応を批判するとともに、モロッコが人権の促進及び保護のための諸機関を通じて適切な対応を取っている旨主張した。

9 湾岸諸国との関係

ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣とムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニー・カタール外相との会談

12日、ドーハで開催された中国・アラブ協力フォーラム第7回閣僚級会合に出席したブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣は、同会合の-marginでムハンマド・カタール外相と会談した。会談の中で、ブーアイダ特命大臣は、西サハラ問題におけるカタールのモロッコ支持に謝意を表するとともに、カタールからの直接投資がモロッコの経済・社会開発に貢献している旨述べた。

10 その他

（1）ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣の第34回AMU外相会合出席

5日、チュニスにて開催された第34回アラブ・マグレブ連合（AMU）外相会合にブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣が出席し、同特命大臣は、アラブ・マグレブ連合（AMU）の新秩序形成のためのモロッコからの呼びかけを強調し、AMUは補完性及

び地域統合を実現することができる唯一の存在であり、地域・国際グループにおいてそのプレゼンスを強固にする必要性を述べた。同特命大臣は、マグレブ地域の樹立は戦略的選択、歴史的に得られたもの、抗し得ない民衆の要求であるとの確信から、モロッコは、AMUの活動、優先順位の決定及び作業方法の進展を再活性化し得るすべての手段を検討する用意がある旨述べた。

(2) アラブ・マグレブ連合（AMU）新事務局長の指名

5日、チュニスにて開催されている第34回アラブ・マグレブ連合（AMU）外相会合で、AMU新事務局長としてタイエブ・バクーシュ元チュニジア外相が指名された。バクーシュ新事務局長は72歳で、2011年後の最初のチュニジア内閣で教育大臣及び政府報道官を務めた後、2015年2月から2016年1月まで外務大臣を務めていた。

(3) ベンキラン首相とエシード・チュニジア首相との会談

10日、ラバトにてベンキラン首相はモロッコを公式訪問中のエシード・チュニジア首相と会談した。会談では両国の協力関係の推進方法について協議が行われ、とりわけテロ対策分野における両国間の協力促進について協議した。また、両国は共通の経済・社会問題についても協議を行い、とりわけ経済開発、社会保障、教育、職業訓練などの分野における各々の経験を共有することで一致したほか、投資を促進し、実りあるパートナーシップの設立を優遇するために行政手続を簡素化する必要について合意した。

(4) アブデラジズ・ポリサリオ戦線書記長死去

31日、モハメッド・アブデラジズ・ポリサリオ戦線書記長（兼「RASD」（サハラ・アラブ民主共和国）大統領）が肺がんにより死去した。ハトリ・アドゥフ（Khatri Addouh）ポリサリオ戦線国民評議会議長が、新書記長選出まで最大40日間、書記長の職務を引き継ぐこととなる。アブデラジズ書記長は1947年生まれで、1972年にポリサリオ戦線の結成に参加した。エル・ウアリ・ムスタファ・サイエド（El-Ouali Mustapha Sayed）の死去に伴い、1976年にアブデラジズ書記長はポリサリオ戦線書記長に就任し、1982年に「RASD大統領」に選出された。

＜モロッコ要人の外国訪問＞

日付	国	氏名・肩書き	目的
5月5日	チュニジア	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	AMU外相会合出席
5月6日	エルサルバドル	タルビ＝アラミ衆議院議長	サンチェス＝セレン大統領との会談，ペナ＝メンドーザ国会議長との会談
5月7日-	ア首連	エル・ハッサン皇太子，サルマ王女	私的旅行
5月10日	グアテマラ	タルビ＝アラミ衆議院議長	モラレス大統領との会談
5月10-13日	独	ベンシャマシュ参議院議長	ランメルト連邦議会議長との会談
5月11-13日	中国	モハメッド6世国王，メズアール外務・協力大臣，ラミッド法務大臣，ブーサイド経済・財政大臣，アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣，ラバハ設備・運輸・ロジスティクス大臣，エル・アラミ産業・貿易・投資・デジタル経済大臣，アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣，ハッダド観光大臣，スビヒ文化大臣，ルディ首相付国防管理担当特命大臣，ブリタ外務・協力大臣付特命大臣，エル・ヒティ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣付環境担当特命大臣	公式訪問（習近平国家主席との会談，李克強國務院総理による表敬，張徳江・全国人民大会常務委員会委員長による表敬，15の協定署名式典出席，15の官民連携協定式典出席ほか）
5月12日	カタール	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	中国・アラブ協力フォーラム第7回閣僚級会合

			出席
5月12日	ニカラグア	タルビ＝アラミ衆議院議長	ハレスレーベンス副大統領, サントス・ロペス外相との会談
5月16-21日	ベルギー	ベンキラン首相	英語研修
5月17日	チェコ	ベンシャマシュ参議院議長	ザオラーレク外相との会談
5月18日	仏	メズアール外務・協力大臣	エロー外務・国際開発大臣との会談
5月20日	赤道ギニア	タルビ＝アラミ衆議院議長	ンゲマ大統領就任式典出席
5月22-24日	トルコ	ムーレイ・ラシッド王子, メズアール外務・協力大臣	世界人道サミット出席
5月23-27日	韓国	ムッルーン都市計画・国土整備大臣	都市開発・整備視察
5月26日	ケニア	メズアール外務・協力大臣	国連環境計画（UNEP）第2回国連環境総会閣僚級会合出席
5月30日	ドーハ	ブーサイド経済・財政大臣	中東経済の将来第11回会合出席
5月30日	スペイン	アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣, アリ・ファシ・フィフリONEE総裁	フェリペ6世国王謁見, ガルシア＝レガス貿易担当国務大臣との会談
5月30日	スペイン	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	予防外交に関する地中海国際会議出席, ガルシア＝マルガージョ・スペイン外相との会談

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
5月3-5日	日本	林経済産業大臣, 武藤外務副大臣	第4回日本・アラブ経済フォーラム出席, ベンキラン首相, メズアール外務・協力大臣との会談(武藤外務副大臣), エル・アラミ産業・貿易・投資・デジタル経済大臣と会談(林経産大臣)
5月5日	チェコ	クチャ国防副大臣	ルディ首相付国防管理担当特命大臣との会談
5月10日	チュニジア	エシード首相	ベンキラン首相との会談
5月11日	スウェーデン	リンド内務大臣付国務大臣	ビルー在外モロッコ人・移民問題担当大臣との会談, ドライス内務大臣付特命大臣との会談
5月11日	ブルンジ	カガヨ地域開発大臣	マラケシュ=サフィ地域訪問
5月23日	仏	ジュペ元首相	ベンキラン首相との会談, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣との会談
5月28-29日	モーリタニア	エル・ハジ上院議長	ベンシャマシュ参議院議長との会談
5月30日-6月2日	インド	アンサリ副大統領	ベンキラン首相との会談, タルビ・アラミ衆議院議長との会談, 駐ラバト・インド・モロッコ商工会議所開設式典出席
5月30日	エジプト	アリー・アブデルアール代議院議長	ブリタ外務・協力大臣付特命大臣との会談, ベンシャマシュ参議院議長との会談

(了)